

市民の地域交流の促進を目指して

活動風景 (1F 多目的ホール)



(1F 研修室1)



伊達中央交流館外観 ↑



(1F 和室)



(1F 調理室)

児童図書も豊富！



自由な交流スペース (1F ホワイエ)



ご利用にあたり



- 利用申込 事務所窓口の利用申請書により申込み
(1ヶ月前から申請可)
- 利用時間 9時～21時30分
(ただし、日曜日は9時～17時)
- 休館日 毎週月曜日
年末年始(12月29日～1月3日) など
- 使用料 9時～17時：630円／1時間
17時～：840円／1時間
※市主催、市民団体等の
減免(全額、50%) 基準があります。
- 設備・部屋(定員)
1階：多目的ホール(60人)、研修室1(16人)
研修室2(12人)、調理室(調理台2、8人)
2階：研修室3(16人)
※定員は、机に2人掛けで想定される人数で
算出。
- その他 ホワイエ(自由交流ロビー)
わくわく広場(子育て支援用)

伊達中央交流館は、市民の地域交流を促進し、市民の生活文化の向上と市民福祉の増進及び地域の主体的な地域づくり活動を支援するための公共施設です。

令和四年度の伊達中央交流館の利用状況ですが、NPO法人事業参加者を

伊達中央交流館の利用ガイド

合わせ、一万八千人余(昨年対比16%増)のご利用をいただきました。

令和五年度も、ルールやマナーにご留意いただきながら、快適に施設をお使いくださいますようお願いいたします。

なお、詳細を知りたい方は、伊達中央交流館までお問合せください。

(電話)〇二四一五五一一二八五

NPO法人
伊達西地区

自治協だより

第42号

発行・編集
NPO法人
伊達西地区自治協議会
事務所:伊達市北後22-1

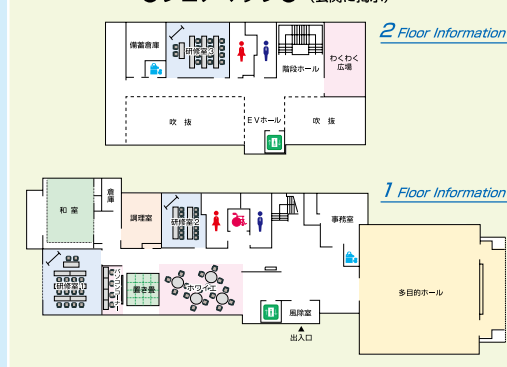
発行責任者
理事長 小野孝雄

- | | | | |
|----------------------------|----------------------------|----------------------------|----------------------------|
| 4面 | 3面 | 2面 | 1面 |
| 伊達地域青少年作文コンクール最優秀作品(伊達小児童) | 伊達地域青少年作文コンクール最優秀作品(伊達小児童) | 伊達地域青少年作文コンクール最優秀作品(伊達小児童) | 伊達中央交流館の利用ガイド |
| 伊達地域青少年作文コンクール最優秀作品(伊達中生徒) | 伊達地域青少年作文コンクール最優秀作品(伊達小児童) | 伊達地域青少年作文コンクール最優秀作品(伊達小児童) | 伊達地域青少年作文コンクール最優秀作品(伊達小児童) |
| 伊達地域青少年作文コンクール最優秀作品(伊達小児童) | 伊達地域青少年作文コンクール最優秀作品(伊達小児童) | 伊達地域青少年作文コンクール最優秀作品(伊達小児童) | 伊達地域青少年作文コンクール最優秀作品(伊達小児童) |

下記のQRコードから、過去の「自治協だより」をご覧くださいませ
(市民活動支援センターHP)



●フロアマップ● (玄関に掲示)



作品紹介

第38回伊達地域青少年作文コンクール最優秀作品より

もう一度あの場所へ

伊達小学校 六年 小野 結花

私には、ふとした瞬間に、頭をよぎる大切な場所がある。思い出したとき、なぜか心がぼかぼかあったかくなる。その場所は、一体どこかというところ……。

それは、伊達小から伊達町商店街へ向かって歩いたところにある「まちなびの駅」二階で開かれていた「まなびのひろば」だ。そこに私は、三、四年生の時、週に一度通っていた。

金曜日学校を出た私は、まなびのひろばへまっしぐら。ランドセルをおろして、最初に宿題をすませる。問題が分からないと、スタツフさんや元教師のチコちゃん先生、みっちゃん先生がやさしく教えてくださるので、いつもより宿題を終わらすことができる。できようになるから、楽しく学習が進められる。一石二鳥だ。

宿題が終わると、お待ちかねのおやつ時間となる。手作りのおにぎりや、特別に作っていたいたのドーナツなど、いつも私たちの健康を考えたものが出される。と

てもおいしい。みんな自然に笑顔になっていった。

最後はいいよ遊びの時間だ。一階には一台の卓球台があった。みんなできちんとルールを守って順番に仲良く卓球をして遊ぶことになっていた。一年生から四年生もいるので上の学年の子がリーダーとなって下の子たちの面倒をみるのは当たり前のことだ。正直人の世話は苦手な私だったが、頑張つて声をかけ、面倒を見ないわけにはいかない。でも下級生がたよってくると、だんだんそれが楽しくなってきたのは、不思議な感覚だった。その他にも、折り紙で難しい箱づくり挑戦したりもした。一人ではできないことが、みんなと一緒に完成させることができるのだ。私でもできるんだと思えてきた。

特に楽しかったのは、ハロウィンパーティーだ。おかしをもらうためにいくつかのミッションをクリアする。離れたところにある袋にボールを投げ入れるゲームあり、クイズで三回正解目指すゲームあり、先生方が工夫をこらしてつくってくれたゲームは、すべて楽しかった。三歳ちがいの妹がよく、「金曜日はあと何日?」

と楽しみにしているのもうなづけた。五年生より、私は吹奏楽部に入部し

たため、まなびのひろばへは顔を出さなくなっていたが、時々妹のお迎えで行くことがある。それだけでも、つい心がわくわくしてしまう。みっちゃん先生をはじめ、すべてのスタツフさんがいつも歓迎してくれた。

実はこんなにも大好きなまなびのひろばが、今年の三月に終了してしまつた。正直悲しくてたまらない。学校に行くのがつらかった時も、このまなびのひろばがあったからがんばつて学校へ行けた。心が温かくなつて、心が安らぐ場所。もう一度行きたいと今だに思えるほどの私の大切な場所、これからも決して忘れることはないにちがいない。

(学校学年は令和4年度です。)

お知らせ

交流館にて、下記の雑誌のバックナンバーをお譲りいたします。

NHK テキスト

「趣味の園芸」

「きょうの料理」

「すてきにハンドメイド」

「やさいの時間」

・期間:6月1日(木)～

(無くなり次第終了)

・冊数:お一人様4冊まで

・対象:2017年1月号～

2021年12月号

基本的感染対策は引き続き有効です

- ①場面に応じたマスクの着用 ②手洗い等の手指衛生
③換気 ④「3密」の回避 ⑤人と人との距離の確保



法律上の取り扱いが変わっても、新型コロナウイルスの特性は変わりません。個人や事業者が自主的に感染対策を行うことになっても、基本的感染対策は引き続き有効です。

〈福島県「新型コロナウイルス対応の変更点」〉より抜粋

●交流館利用時においても、基本的感染対策のご協力をお願いします●

作品紹介

第38回伊達地域青少年作文コンクール最優秀作品より

ぼくの守りたいもの

伊達小学校 五年 樋口 凜空

ぼくは、伊達市に住んでいる六人家族のもとに生まれた。いつも家中には、家族の楽しい声がひびいていて、それが心地よい。そして、家族の楽しい声を聞くと、とても安心する。

ひいおばあちゃんと、祖父母の三人で理容業を営んでいる。家の一角が床屋で、リビングを通ると店だ。ピカピカのハサミを持って頑張る家族を、ぼくは十一年間知っている。しかし、ぼくの店は八十年もの歴史があると聞いて、とてもおどろいた。

「こんなに長く続けてこれたのは、毎日地元のお客さんが、たくさん来てくれるからだよ。」と、祖母が教えてくれた。お客さんの中には、ぼくが赤ちゃんのころを知っている人もいて、「あら、凜空君、大きくなったこと。」

と、声をかけてくれる。恥ずかしいけど、なんだかうれしい。ぼくの家は商店街にあり、歩いているとみんなが声をかけてくれ

「こんにちは。」や「こんばんは。」は、当たり前。ぼくが元気のいいときには、「凜空君、お帰り。」

と声をかけてくれる。その声を聞くと優しい気持ちになって、いやなことが飛んでいく。そんな時、人と人とのつながりの大切さを改めて感じるのだ。

スーパーや大型店には、いろいろな種類の物が売っているし、そこで買いたく物ですぐで便利だ。でも、ぼくは商店街が好きだ。商店街には、魚屋や果物屋、肉屋もあり、時々、おすそ分けをいただくこともある。そして何よりも店の人とお客さんが買い物をしながら話をしたり、笑ったりしている姿を見るのが大好きだ。みんな楽しそうに仕事もしている。

しかし、最近、不安になる。商店街を歩いていると、以前よりもお客さんや子どもの姿が少なくなってきたからだ。このままだと、ぼくの大好きな商店街がなくなってしまうのではないかと。

商店街が生き残る方法を、ぼくは考えた。ぼくが大人になった時大好きな商店街、大好きなふるさとのために何ができるのかを。

人と人とのつながりを大切にし、みんなが楽しく生活できる伊達市を守れる大人になりたい。そのためには、笑

顔あふれる商店街や個人経営の店を残していきたい。ぼくが感じたように、「ここに生まれてよかった。」とだれもが思うふるさとにしたい。

ぼくのふるさと「伊達市」。それぞれの町のよさを多くの人に知ってもらい、移り住んでもらう。町がにぎわい、人と人とのつながりが生まれれば、みんながもつと幸せに暮らしていけると思う。

昔から大切にされてきた人と人とのつながり。それが、ぼくの守りたいものだ。

わたしのふるさと

伊達東小学校 四年 清野 葉叶

私の住んでいる地いきには、水雲神社という、昔からある神社があります。ばあちゃんの家が神社に近く、私は以前、神社にあるブランコをするために、ばあちゃんと一緒に通っていました。するとお父さんが、私や妹達が生まれて、名前を決める時、私達が元気に育つように願って、水雲神社の神主さんにみてもらい、名前を付けたんだよ、と話をしてくれました。また、自宅にある自分の写真を見返してみると、生まれて百日のお宮参りや七五三など、私が健康にそだつようにお参りに行っ

ていたことを知りました。

そんな水雲神社も、新型コロナウイルスのえいきょうで、人が集まることのできなくなり、お祭りが中止になりました。お祭りの時にあっていた人とも会えなくなり、私はかなしくなりました。さらに、地しんが起きて、神社のこまいぬやくらなどがこわれてしまいました。神社はきけんな場所になってしまいました。神社の中で友達と遊ぶこともなくなりました。

神社は、私や家族にとって、思い出のつまった場所です。私が健康にすごしているのも神社のおかげだと思っています。遠くに出かけて帰ってきた時、神社を見ると、家に帰ってきたような気持ちになります。私や地いきの人にとっても大切な神社をこれからどのように守っていけばよいのか、みんなで考えていきたいです。

(学校学年は令和4年度です。)



本号に掲載しきれなかった作品は、次号でご紹介いたします。

作品紹介

第38回伊達地域青少年作文コンクール最優秀作品より

大好きなお祭り

伊達中学校 二年 佐藤ノエル

毎年私の夏は、太鼓の音、笛の音、提灯の明りから始まる。年に一度の天王祭だ。

天王祭というのは、「天王さま」という名で親しまれている熱田神社と八雲神社を一つに合わせることから、「嫁入り祭り」とも呼ばれている。日中に各地区を歩いた八台の山車が、夕暮れ時に祭り会場の天王通り商店街に一斉に集まると笛や太鼓の競演が始まり、祭りは最高潮を迎えるのだ。

以上のことから、この天王祭はとても華やかで楽しい祭りだ。私がこの歴史ある祭りを守りたい理由は三つある。

一つ目は、地域の人との交流を深められるからだ。私が本格的に天王祭に参加し始めたのは、小学三年生ぐらいの時だ。笛の人数が少なかったことから、私は参加したての頃から笛をやっていた。笛をなんなくこなすお姉さんたちは、当時の私にはとてもかっこよく、私もあんなふうに吹けたらなあと思う存在だった。でも、ずっと遠くから見ているだけだった私に、あるお姉ちゃんが、「これ吹いてみる？」と声をかけてくれた。笛の音を出

すのは難しかったが、何回も吹いているうちに、フーという音が出た。その時お姉さんが、「すごい！才能あるね！」とほめてくれた。当時の私にはとてもうれしく、毎日毎日練習のある日は、そのお姉さんに教えてもらっていた。それは今現在でも続いており、年上のお友達もたくさんでき、自分が教える立場にもなり、年下の友達もできた。もちろんそれだけではない。いつもお祭りの時、町内を少し回り休憩で集会所に戻ってくると、おばちゃんたちが玉こんにゃく氷を作って待っていてくれる。私はその時の集会所の雰囲気が好きだ。特にそこで食べる玉こんにゃくが格別だ。作ってくれるおばちゃんは、私の家の近所に住んでいる。そのおばちゃんとは、天王祭がきっかけとなり、今でも何気ない話をしたり、たくさん漬け物作ったなどと言い、家に漬け物を置いて行ってくれる。今考えてみると、仲の良い方部のおばちゃんたちは、天王祭きっかけがとても多い。

二つ目は、老人の方に元気を与えられるからだ。日中、方部を歩く時に老人ホームに寄り、そこで演奏をする。外に車イスで出てきた老人の方々は、手拍子をしたりして楽しんでいる。演奏が終わると、とっても笑顔になっていて、その笑顔を見てとっても心が温かくなる。老人ホーム以外でも山車を見るために外に出て、とってもニコニコで、

「すごいね。頑張つて。」と声をかけてくれる。またさらに心が温かくなる。老人の方々にとって、一つの元気の源になってくれるととてもうれしい。

三つめは、特別感だ。天王祭の夜は、みんなが提灯に負けないくらいキラキラしている。その日のために髪を整え、リングライトやタトゥーシール、その日特別の衣装を身にまとう。山車に乗ったら、さらにみんながキラキラしだし、みんなが大声を出したりして、方部だけでなく、伊達全体が一体となる。いつもは静かな商店もきらびやかになる。そんな中でも、唯一静かになる時がある。巫女踊りの時間だ。巫女さんの格好をした女子小学生が、笛に合わせて踊る。その時間はシーンと静まりかえり、ただ巫女踊りの太鼓の音、笛の音、鈴の音だけが鳴り響く。これも天王祭でしか味わえない。

(学校学年は令和4年度です。)

ご利用の際は交流館窓口まで！

☕

《挽き立て!》

エスプレッソコーヒー

ご利用いただけます

一杯 ¥100

【利用時間】火～金曜 10時～16時まで

一杯ずつ豆を挽く香り高い本格珈琲
エスプレッソならではの泡立ち(クレマ)も
お楽しみください!

※エスプレッソの適温67℃でのご提供です

挽き立てコーヒーをご用意しています

伊達中央交流館にエスプレッソマシンが導入されました。挽き立てのコーヒーをご用意しています(一杯100円で)。お散歩中の休憩や会議の際などにご利用ください。

【利用時間】火～金曜 10時～16時

編集後記

令和四年度の中央交流館の利用者が一万八千人を超えた。西地区住民が年に2度ほど利用したことになる。交流欲求がコロナ禍終息を機に高まって来ている。

青少年の街を思う作品に感動。これらの心情をさらに発展させる為に、周囲の大人の心持が重要になる。

(鈴木克)